

# 〇〇〇学級 道徳学習指導案

指導者

- 1 主題名 ともだちとなかよく 低学年2-(3) 信頼・友情  
資料名 「ともだちいっぱい」(ひかりのくに傑作集18) 「わらべうたあそび」(ぬくもり)

## 2 主題設定の理由

- 本主題は、「友だちと仲よくし、助け合う」ことを主な内容としている。本時は、この内容の「身近にいる友だちと仲良くしようとする心情を育てる」ことをねらいとしている。

友だちの存在は、児童が成長する上でとても大切なものであり、良い友だちをもつことは、互いを高め合い、人生をより豊かに充実させるものである。児童は、友だちとの様々な関わりを通して、自分自身や他の人への関わりを深めながら、徐々に社会性を身につけていくものである。毎日接する友だちと遊んだり、学習したりする中で、友だちと一緒にいることの楽しさや友だちと「仲良く」することの心地よさを感じ取らせ、身近な友だちを大切に思う心情を養うことは大切であると考え。また、けんかをする中で、自分自身の気持ちの快不快を自覚するようになり、友だちと仲良く遊ぶには、どうすればよいのかを感覚的に身につけていくものである。

そこで、本主題を通して「友だちっていいな」「もっと仲良しになりたい」という思いを育てることは、大変意義深いと考える。

- 本学級の児童は、素直で優しい気持ちをもっている反面、相手のことを考えずに傷つけることを言ってしまうこともある。また、友だちと遊ぶことが好きであり、かもめ学級の友だちだけでなく交流学級の友だちとも仲良く遊ぶ姿が見られるが、自分から遊びに入ろうとせず一人遊びを好んだり、教師が介入しないと遊びが続かなかつたりけんかをしたりする児童も時々見られる。また、同じ遊びをしても児童同士の関わりが薄く感じられることもある。このような児童に、教師が介入しつつも、身近にいる友だちとの関わりを多くし、友だちと遊ぶ楽しさを味わわせ、「友だちっていいものだな」という心情を培うことは意義深いと考える。

- 本資料「ともだちいっぱい」は、みちるとさとるが本の取り合いをしてけんかするが、「ともだちのともだちは、ともだちなんだよ。」というももこの言葉で、仲直りするという内容であり、友だちと仲良くしようとする態度を育てる資料である。また、「わらべうたあそび」は、体をふれあいながらみんなで楽しく遊ぶという仲間づくりをするのに有効な資料である。

本時指導にあたっては、導入段階で、「ともだちいっぱい」の絵本を提示し、「ともだち」という言葉を意識させる。展開前段では、「ともだちいっぱい」の二つの場面を比べ、二人の気持ちを考えることを通して、友だちと仲良くすることのよさを確認させる。また、その後には、「わらべうたあそび」を取り入れ、クラスみんなで一緒に遊び、友だちと仲良く遊ぶ楽しさを味わわせる。展開後段では、友だちと一緒に遊んで楽しかったことを振り返り、その時の気持ちを想起させる。終末では、教師の息子が友だちと仲直りをしたときの話を通して、友だちと仲良くしようとする価値意識を児童が持ち続けるようにする。

## 3 本時のねらい

友だちと仲良く活動していこうとする心情を育てる。

- 4 本時 平成20年11月19日(水) 第5校時 〇〇〇学級教室に於いて

## 5 地域との関連(地域のひと・もの・ことの活用)

地域題材: ぬくもり 地域人材: 学校司書

- 6 準備 絵本「ともだちいっぱい」、 絵本「いろいろお世話になりました」、 挿絵  
道徳ノート、 遊んでいる子どもたちの写真

7 展開

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	<p>1 今日の学習について知る。</p> <p>(1) ゲストティーチャーを紹介する。</p> <p>(2) 「ともだちいっぱい」の本の紹介を聞き、めあてを知る。</p> <p>めあて</p> <p style="text-align: center;">ふたりのきもちをかんがえよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が、緊張しないように楽しい雰囲気でお話を</li> <li>する。</li> <li>○ ゲストティーチャーと早く慣れるように、手遊び歌をする。</li> </ul>
展開前段	<p>2 ゲストティーチャーによる「ともだちいっぱい」の読み聞かせを聞き、ふたりの気持ちを考える。</p> <p>(1) 「ともだちいっぱい」の読み聞かせを聞く。</p> <p>(2) けんかをしている時のふたりの気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center;">けんかしているときのふたりのきもちをかんがえよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ みちるちゃん嫌い。</li> <li>○ さとる君と遊ばない。</li> <li>○ 絶対に本を貸してあげない。</li> </ul> <p>(3) 手をつないでいるふたりの気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center;">手をつないでいるときのふたりのきもちをかんがえよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ うれしい。</li> <li>○ 仲直りできてよかった。</li> <li>○ 一緒に遊ぼう。</li> </ul> <p>3 わらべうたあそび「おちゃをのみにきてください」をして遊ぶ。</p> <p>(1) ゲストティーチャーによる「いろいろお世話になりました」の読み聞かせを聞く。</p> <p>(2) わらべうた「おちゃをのみにきてください」をして遊ぶ。</p> <p>(3) ゲストティーチャーの手遊びを見て、ゲストティーチャーを送る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が集中できるように、担任は、児童のそばで読み聞かせを聞く。</li> <li>○ 描くのが苦手な児童には、3種類の顔の絵を見せて選ばせ、教師が気持ちを言葉に表す。</li> <li>○ 二人の気持ちを考える手がかりにするために、顔の輪郭を描いた紙を渡し、目、眉、口を書き込ませる。</li> <li>○ 描くのが苦手な児童には、目、鼻、口の絵カードを渡して貼るようにする。</li> <li>○ 二人の気持ちをより理解できるように、二人の顔のまねをさせ、お互いに見合わせる。</li> <li>○ 気持ちの違いがわかりやすいように、同じように顔の絵を描いたり、顔のまねをさせたりする。</li> <li>○ 言葉に表しにくい児童には、3種類の顔の絵から選ばせ、選んだ2枚の顔のカードを比べさせる。</li> <li>○ 楽しい気持ちになり、遊びたくなるように節を付けて読む。</li> <li>○ 児童が遊んでみたいと思うように、ゲストティーチャーと教師が遊んでみせる。</li> <li>○ 恥ずかしがってしたがらない児童は、無理にはさせず友だちがしているのを見るようにする。</li> </ul>
展開後段	<p>5 友だちと一緒に遊んで楽しかったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ○年の友だちと一輪車をして遊んだ。</li> <li>○ ○年の子と一緒にドッジボールをして遊んだ。</li> <li>○ ブランコをした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が想起しやすいように、児童が交流学級の友だちと遊んでいる写真を掲示する。</li> <li>○ 気持ちをうまく言葉で表しにくい児童には、友だちの名前が言えるようにクラスの児童の写真を見せる。</li> </ul>
終末	<p>6 教師の話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師の子どもが、友だちと仲直りした後、仲良く遊んだ話をする。</li> </ul>

8 板書計画

<p>・・・</p>	<p>ともだちとあそんでたのしかったこと</p>	<p>顔の 絵</p>	<p>顔の 絵</p>	<p>顔の 絵</p>	<p>顔の 絵</p>	<p>顔の 絵</p>	<p>顔の 絵</p>	<p>めあて</p>	<p>ひがし先生<small>せんせい</small> 「ともだち いっぱい」</p>
	<p>・うれしい。 ・仲直りできてよかった。 ・一緒に遊ぼう。</p>	<p>手をつないでいるときのふたりのきもちをかんがえよう。</p>	<p>顔の 絵</p>	<p>顔の 絵</p>	<p>顔の 絵</p>	<p>顔の 絵</p>	<p>顔の 絵</p>	<p>顔の 絵</p>	<p>ふたりのきもちをかんがえよう。</p>
								<p>けんかしているときのふたりのきもちをかんがえよう。</p>	

9 道徳ノート

てをつないでいるときは  
なまえ  
どんなかお？

けんかしているときは  
なまえ  
どんなかお？